

関係機関長殿  
病虫害防除員殿  
調査員・情報員殿  
農業資材販売等関係者殿

奈良県病虫害防除所長

平成26年度病虫害発生予報第3号（7月予報）の送付について

このことについて、下記の通り発表しましたので送付します。安全・適正な防除についてご指導をお願いします。

今月の発生に注意を要する病虫害

作物名	病虫害名	発生時期	発生量
水稻（中山間地域）	ばか苗病	平年並	多い
ナシ	黒斑病	平年並	やや多い
〃	黒星病	平年並	やや多い
ミカン	ミカンハダニ	平年並	やや多い
果樹共通	カメムシ類 （チャバネアオカメムシ・ツヤ アオカメムシ・クサギカメムシ）	早い	多い
チャ	チャノホソガ	やや晩	多い
キク	白さび病	平年並	やや多い
野菜・花き共通	ハダニ類	平年並	多い

近畿地方の向こう1か月（6/28-7/27）の気象予報では、平年に比べ曇りや雨の日が多い見込みです。平均気温は平年並の確率が40%、降水量は平年または多い確率ともに40%、日照時間は平年並または少ない確率ともに40%です。

6月1日～9月30日は農業危害防止運動の重点実施期間です。農薬のラベル記載事項の遵守と使用履歴の記帳、農薬の飛散防止、適正な保管管理等の指導の徹底をお願いします。

農薬のラベルに記載された適用作物名について、思い込みや読み違いによる誤使用が起こる可能性があります。以下のような作物間ではいずれも農薬登録内容が異なりますので、特に注意して下さい。  
○トマトとミニトマト  
○ピーマンとシシトウ  
○実えんどう（未成熟な種子を収穫するもの）とさやえんどう（未成熟なさや付き豆を収穫するもの）とえんどうまめ（成熟した種子を収穫するもの）  
○さやいんげん（未成熟なさや付き豆を収穫するもの）といんげんまめ（成熟した種子を収穫するもの）  
その他、判断に迷った場合には、病虫害防除所や農業研究開発センター技術支援課へお尋ねください。

I. 普通作物

1. 水稻

(1) いもち病（葉いもち病）

予報内容 発生時期：平年並 発生量：平年並

予報の根拠

- 1) 6月下旬の巡回調査では、発生は認められていません。
- 2) 今後、天候不順が続くと発生が拡大する恐れがあります。

### 防除上の注意事項

- 1) 中山間地域において出穂前に葉いもちの初発を確認したら、直ちにブラシン水和剤で防除します。
- 2) 穂いもちの予防に粒剤を使用する場合は、オリゼメート粒剤では出穂の3～4週間までに、コラトップ粒剤5では出穂30日～5日前までに処理します。粉剤や水和剤を用いる場合は、出穂始めと穂ぞろい期の2回が防除適期です。1回防除の場合には出穂始めに防除します。
- 3) ほ場の周囲に収穫期の野菜等がある場合には、ドリフトを避けるため、粉剤や水和剤は使用せず、必ず粒剤で防除します。
- 4) 粒剤を施用する場合は、処理前に湛水し、処理後1週間は必ず止め水管理をします。

### (2) 紋枯病

予報内容 発生時期：平年並 発生量：平年並

#### 予報の根拠

- 1) 6月下旬の巡回調査では発生は認められていませんが、近年中山間地域における本病の発生が増加しています。
- 2) 今後、気温が高く推移し適度な降雨があると、本病の病勢が進展します。

#### 防除上の注意事項

- 1) 中山間地域での防除適期は7月上旬～中旬で、平坦地域では7月下旬～8月上旬です。常発ほ場では遅れないように防除を行います。また、中山間地域の発生ほ場では、8月中旬までに中位葉鞘への病斑の上位進展が認められれば、直ちに追加防除を行います。
- 2) 水和剤や粉剤で防除する場合には、株元に薬剤がよくかかるように、落水してから防除します。

### (3) ばか苗病

予報内容 発生時期：平年並 発生量：多い (中山間地域)  
平年並 (平坦地域)

#### 予報の根拠

- 1) 6月下旬の巡回調査では、中山間地域において発生ほ場率28%で、平年より多くなっています。多くのほ場が発病株率1%未満の微発生ですが、一部多発ほ場が見られます。

#### 防除上の注意事項

- 1) ほ場内をよく観察し、発病が認められた場合にはすみやかに株ごと抜き取り、焼却するか地中へ埋設して処分します。特に採種ほ周辺では、発病株の抜き取りを徹底します。
- 2) 発生ほ場では自家採種を控え、種子更新を行います。また、次年度の種子消毒を徹底します。

### (4) ニカメイチュウ第1世代

予報内容 発生時期：平年並 発生量：やや少ない

#### 予報の根拠

- 1) 6月の農業研究開発センター（櫃原市四条町）内のフェロモントラップへの誘殺数は少なく、発生時期は平年並です。
- 2) ここ数年、桜井市などで局地的な多発生が認められており、常発地では注意が必要です。

#### 防除上の注意事項

- 1) これまで発生がなかったほ場でも、寄生や被害がないか株元を中心によく観察します。被害を確認した場合は、7月上旬にパダンバッサ粒剤で防除します。

### (5) セジロウンカ

予報内容 発生時期：平年並 発生量：平年並

#### 予報の根拠

- 1) 農業研究開発センター（櫃原市四条町）内の予察灯への飛来は、認められていません。また、6月下旬の巡回調査では、発生ほ場率は7%でした。

### 防除上の注意事項

- 1) これから増加する時期ですので、箱粒剤処理などの防除を行っていないほ場では注意します。7月上旬中旬に株当たり10頭以上になると防除が必要です。

#### (6) イチモンジセセリ（イネツトムシ）

予報内容 発生時期：平年並 発生量：やや少ない

##### 予報の根拠

- 1) 6月下旬の巡回調査では、発生は認められませんでした。

##### 防除上の注意事項

- 1) 防除適期は7月4半旬から6半旬で、この時期はウンカ類やコブノメイガ、紋枯病などと同時に防除することができます。
- 2) 7月下旬までに出穂する品種は防除が不要です。

#### (7) 斑点米カメムシ類

予報内容 発生時期：平年並 発生量：やや少ない

##### 予報の根拠

- 1) 6月下旬の巡回調査では、本田での発生は認められていません。しかし、休耕田や管理不十分な雑草地など、斑点米カメムシ類の増殖に適した生息地が増えています。

##### 防除上の注意事項

- 1) 水田周辺のイネ科雑草に対し、水稻出穂の20日前と出穂直前の2回除草しておくとかメムシの侵入が減少します。ただし、1回の除草のみでは逆にカメムシが増加する場合があります。20日前の1回除草の場合は、出穂期の薬剤防除を併用します。また出穂期のみ1回除草はカメムシをほ場に追い込むこととなりますので控えます。
- 2) カメムシが吸汁して、斑点が米に残るのは出穂10日後からの加害です。粉剤や液剤散布の場合は出穂7日後と14日後の2回防除が有効です。スタークル粒剤を使用する場合は出穂期～出穂7日後に処理します。
- 3) 早生水稻品種はカメムシが集中するので、被害が多くなります。中山間地域では、地域全体で除草や薬剤防除を一斉に行うことが必要です。道路や河川などの除草も関係者に協力をお願いします。
- 4) カメムシ被害は水田の額縁（外から1m幅）に多いので、水田の額縁防除でも高い効果が得られます。
- 5) 周辺で養蜂が行われている地域では、農薬の使用に際し、事前に関係者への情報提供を行う等十分な危害防止策を講じます。

## II. 果樹・チャ

### 1. カキ

#### (1) 炭疽病

予報内容 発生時期：平年並 発生量：平年並

##### 予報の根拠

- 1) 6月下旬の巡回調査において、新梢病斑の発生は少なくなっています。

##### 防除上の注意事項

- 1) ふところ枝や軟弱徒長した枝は、病気の発生源となりやすいので早めに除去します。
- 2) 罹病新梢や発病果を発見した場合は、周囲への伝染源となりますので必ず除去し園外へ持ち出して処分します。
- 3) 梅雨期は炭疽病の感染盛期ですので、前年および本年発生園では、7月上旬中旬（6月後半の防除から10日～2週間後）に基幹防除に加えて殺菌剤防除を必ず実施します。

#### (2) うどんこ病

予報内容 発生時期：平年並 発生量：やや少ない

##### 予報の根拠

- 1) 6月下旬の巡回調査では、発病葉率は2.6%と発生はやや少ない状況です。

##### 防除上の注意事項

- 1) 葉の病斑（黒い小斑点の集まり）が目立つ多発園では、7月上旬中旬に炭疽病・落葉病防除を兼ねて薬剤散布を行い、病勢の拡大を防ぎます。

### (3) 円星落葉病

予報内容 発生時期：平年並 発生量：平年並

#### 予報の根拠

- 1) 前年秋期の発生状況から、園地の菌密度はほぼ平年並みと考えられます。

#### 防除上の注意事項

- 1) 6月～7月前半が主要感染時期であり、定期的な予防散布を行います。
- 2) 昨年多発した園では、7月上中旬（6月後半の防除から10日～2週間後）に追加防除を実施します。

### (4) フジコナカイガラムシ

予報内容 発生時期：平年並 発生量：平年並

#### 予報の根拠

- 1) 6月下旬の巡回調査では、寄生果率は2.9%でした。

#### 防除上の注意事項

- 1) 防除適期は6月下旬～7月上旬頃の若齢幼虫期です。未防除の場合は速やかに防除します。また、散布むらのない様にていねいに薬液を散布します。
- 2) 発生が目立つ園では、6月下旬の基幹防除から7～10日後頃に追加防除を実施し、第1世代幼虫のうちに密度をしっかりと低下させることが重要です。
- 3) 枝が混み合っている所や高枝等、薬液のかかりにくい部分は防除前にあらかじめ整理します。
- 4) カメムシ防除で合成ピレスロイド剤を多用すると、天敵類が減少しカイガラムシの増加を助長するので注意します。

## 2. ナ シ

### (1) 黒斑病

予報内容 発生時期：平年並 発生量：やや多い

#### 予報の根拠

- 1) 6月下旬の巡回調査では、発病葉率は5.6%とやや多くなっています。
- 2) 徒長枝葉の発病が目立っています。

#### 防除上の注意事項

- 1) 梅雨が明ける7月中下旬頃までが感染の最盛期です。新梢葉の発病に注意して7月中下旬まで降雨量に応じて防除を行います。
- 2) 薬剤散布は、棚上の徒長枝先端部にもしっかりと薬液がかかるように散布します。

### (2) 黒星病

予報内容 発生時期：平年並 発生量：やや多い

#### 予報の根拠

- 1) 6月下旬の巡回調査において、発病葉率は4.5%で一部多発園もみられました。

#### 防除上の注意事項

- 1) 梅雨期の降雨により発病が増加します。病斑の認められる発病葉や発病果は、周囲の葉・果実への伝染源となりますので、できる限り取り除き、園外へ持ち出し処分します。特に、園の外周部や枝の混み合った部分など、薬液のかかりにくいところは多発している場合が多く、入念に確認しておきます。また、薬液のかけむらのないよう十分に注意します。
- 2) 多発園では、梅雨期間中は約7日間隔で防除を実施します。同一系統薬剤の連用を控えます。

### (3) ハダニ類

予報内容 発生時期：平年並 発生量：平年並

#### 予報の根拠

- 1) 6月下旬の巡回調査では、寄生葉率は3.0%でした。寄生種はカンザワハダニが大半を占めています。

#### 防除上の注意事項

- 1) 例年梅雨明け後に急激な密度上昇がみられますので、現在発生が少ない場合でも注意が必要です。こまめに園を観察し、初期防除を徹底します。

- 2) すでに発生が目立つ場合は、梅雨の晴れ間に防除を行い、梅雨明けまでにハダニの密度を減らしておくことが重要です。
- 3) 薬剤散布はていねいに行い、散布むらのないようにします。
- 4) 不要な徒長枝を置かない、重なり枝を作らない等、栽培管理面でも薬液がかかりやすいような工夫を心がけます。

### 3. ミカン

#### (1) ミカンハダニ

予報内容 発生時期：平年並 発生量：やや多い

##### 予報の根拠

- 1) 6月下旬の巡回調査では、寄生葉率は29.8%でした。一部多発園もみられます。

##### 防除上の注意事項

- 1) 梅雨期の降水量が少なく推移しており、ハダニの増殖に好適な条件となっています。園地を観察し、葉の黄化等症状を確認した場合は速やかに防除します。また、梅雨明け後はハダニの増殖に好適な条件となりますので、早期防除に努めます。
- 2) 多発園では、薬剤の感受性低下を防ぐため、同一系統薬剤の連用にならないよう注意し、適切な防除をおこないます。

### 4. 果樹共通

#### (1) カメムシ類（チャバネアオカメムシ・ツヤアオカメムシ・クサギカメムシ）

予報内容 発生時期：早い 発生量：多い

##### 予報の根拠

- 1) 果樹・薬草研究センター（五條市西吉野町湯塩）内及び県内各所の予察灯では、チャバネアオカメムシの誘殺数は5月下旬～6月上旬に増加がみられましたが、その後減少し6月下旬時点では10～20頭/日で推移しています。
- 2) 6月下旬の巡回調査において、ヒノキ樹におけるチャバネアオカメムシの寄生状況は、過去の多発年と同様の傾向を示しています。
- 3) モモ、ナシ等果樹園への飛来・加害が確認されています。

##### 防除上の注意事項

- 1) カメムシの発生量は地域差、園地間差が大きく、予察情報等を参考にこまめな園地見回りをおこない、早期発見・防除に努めます。山林に近接した園地や、過去にカメムシ被害の多かった園地では、特に注意が必要です。今後は収穫期の近づいたモモや、カキの幼果が被害を受けやすくなります。
- 2) カメムシは夜温の高い蒸し暑い夜に飛来が多くなる傾向があります。
- 3) 黄色灯はチャバネアオカメムシの被害軽減に有効ですので、設置園では速やかに点灯します。ただし、クサギカメムシやツヤアオカメムシには効果がないので、光源近くや園内で両種が目立つ場合は薬剤防除が必要です。また、電撃殺虫器、果樹園に面した蛍光灯などの光源はカメムシを誘引するので、できる限り消灯します。
- 4) カメムシの飛来が全くない園での薬剤による予防散布は、十分な効果が期待できず、天敵類の減少によってカイガラムシ類、ハダニ類の増加につながる(合成ピレスロイド剤)など弊害が大きいので控えます。

### 5. チャ

#### (1) 炭そ病

予報内容 発生時期：平年並 発生量：少ない

##### 予報の根拠

- 1) 一番茶摘採残葉での発生は平年より少ない状況です。
- 2) 向こう1ヶ月の天気予報では平年と同様に曇りや雨の日が多いと予想されています。

##### 防除上の注意事項

- 1) 二番茶の開葉期が防除適期です。

#### (2) チャノコカクモンハマキ・チャハマキ

予報内容 発生時期：やや晩 発生量：やや少ない

##### 予報の根拠

- 1) 大和茶研究センター（奈良市矢田原町）内のフェロモントラップへの誘殺数は平年よりもやや少ない状況です。

### 防除上の注意事項

- 1) 発蛾最盛期の7～10日後が防除適期です。

#### (3) チャノホソガ

予報内容 発生時期：やや晩 発生量：多い

##### 予報の根拠

- 1) 大和茶研究センター（奈良市矢田原町）内のフェロモントラップでの誘殺数は多い状況です。

### 防除上の注意事項

- 1) 新芽生育期に産卵が確認された場合は、必ず防除します。
- 2) 摘採間近に巻葉が見られた場合は、早めに摘採します。

#### (4) チャノミドリヒメヨコバイ・チャノキイロアザミウマ

予報内容 発生時期：平年並 発生量：平年並

##### 予報の根拠

- 1) 一番茶摘採後の発生は平年並でした。

### 防除上の注意事項

- 1) 開葉期が防除適期ですので、この時期の防除を徹底します。

#### (5) カンザワハダニ

予報内容 発生時期：平年並 発生量：平年並

##### 予報の根拠

- 1) 6月下旬の調査では、発生は平年並みです。

### 防除上の注意事項

- 1) 発生が認められる場合は、早期に薬剤散布を行います。
- 2) 発生園では2番茶摘採後にも防除を行い、密度低減に努めます。
- 3) 薬剤の感受性の低下を防ぐため、年間を通じて同一系統の薬剤を連用しないように注意します。

## Ⅲ. 野菜類・花き類

### 1. イチゴ（育苗）

#### (1) うどんこ病

予報内容 発生時期：平年並 発生量：平年並

##### 予報の根拠

- 1) 6月下旬の育苗床の巡回調査では、発生ほ場率18%、発病株率0.2%と平年並の発生です。

### 防除上の注意事項

- 1) 雨よけ栽培や寒冷紗被覆下で過繁茂になると発病が拡大しやすいので、注意が必要です。
- 2) 発生ほ場では葉かきやランナー整理を行い、薬剤をかかりやすくしてから防除します。一定のランナーが確保できれば、混み合わないよう親株を早めに除去します。
- 3) 薬剤防除は、発生初期にパンチョTF顆粒水和剤、アミスター20フロアブル又はストロビーフロアブル（ストロビルリン系剤）の他、サンヨール等を用いて防除します。薬剤耐性菌の出現を避けるため同一系薬剤の連用はせず、梅雨明けまでの防除を徹底します。ただし、これらの薬剤は高温および乳剤との混用や機能性展着剤の添加によって薬害が発生しやすいので注意します。

#### (2) 炭疽病

予報内容 発生時期：平年並 発生量：平年並

##### 予報の根拠

- 1) 6月下旬の巡回調査では、発生は認められていません。
- 2) 今後、梅雨明け後の気温の上昇によって発病が助長されます。
- 3) 昨年本病の発生が多かった育苗ほ場では、ほ場や周辺雑草等の保菌率が高い可能性があります。

### 防除上の注意事項

- 1) 発生前からアントラコール顆粒水和剤、ジマンダイセン水和剤による定期的な予防に努めます。前記散布に加えて、強い風雨の後や葉かき、ランナーカットの作業後にはベルコート水和剤、セイビアーフロアブル20等を散布します。
- 2) 親株およびランナーや周囲の子苗での発病を早期に発見し、発生部とその周囲をシートや古ビニールで被覆後、直ちにゲッター水和剤を散布します。
- 3) 夜温が25℃以上となる7～8月の高温・多湿時に多発しやすいので、アスカルビー、古都華、章姫、さがほのか等の罹病性の品種では、苗床が混み合っただけで蒸れないように、必ず苗床の株の整理を行います。
- 4) 多かん水や排水不良による過湿は、本病の発生に好適な条件となりますので注意します。底面かん水法による雨除け育苗は、本病の防除に非常に有効です。

### (3) 萎黄病

予報内容 発生時期： 平年並 発生量： 平年並

#### 予報の根拠

- 1) 6月下旬の苗床の巡回調査では、発生は認められていません。
- 2) 今後、梅雨明け後の気温の上昇によって発病が助長されます。

#### 防除上の注意事項

- 1) 発病株は、周囲の培土およびランナーも含めて早期に持ち出し、肥料袋等に入れ密閉処分します。
- 2) 苗床での根傷みは発病を助長します。特にオガクズベンチ育苗ではかん水不足による根のやけに注意し、ただし、底部に水が溜まらないよう不織布で排水します。
- 3) ベッド育苗では高畝とし、大雨時に苗床が浸水しないよう排水対策を徹底します。
- 4) 本ぼの太陽熱による土壌消毒は、遅くとも7月中旬までに処理を開始し、8月中旬まで1カ月以上処理します。処理前には十分注水しておき、処理途中での追加注水は地温を下げるので避けます。処理中には、被覆ビニールの破れ等がないか必ず点検します。
- 5) 本ぼの土壌消毒後は、汚染土壌の付着や移動により病原菌を持ち込まないように、農作業や浸冠水に注意します。

## 2. ナス（夏秋）

### (1) 褐色腐敗病

予報内容 発生時期： 平年並 発生量： 平年並

#### 予報の根拠

- 1) 6月下旬の巡回調査では、発生は認められていません。
- 2) 今後、天候不順が続くと発生が拡大する恐れがあります。

#### 防除上の注意事項

- 1) 降雨が続くと、発病が助長されます。降雨後にホライズンドライフロアブル、ランマンフロアブル等による予防散布を励行します。
- 2) 被害枝葉及び果実は伝染源となるので、必ず早期にほ場外へ持ち出し処分します。
- 3) 病原菌は水によって伝染するため、ほ場及び畝上の排水を良くし、敷きワラやマルチによって降雨による「はね上がり」伝染を回避します。

### (2) うどんこ病

予報内容 発生時期： 平年並 発生量： 平年並

#### 予報の根拠

- 1) 6月下旬の巡回調査では発生ほ場率16%、発病株率0.3%と平年並の発生です。

#### 防除上の注意事項

- 1) 多発ほ場では整枝剪定を行って通風を良くし、多肥栽培を避け、適切な肥培管理による樹勢維持に努めます。
- 2) 病気まん延後の薬剤防除では効果が劣りますので、予防および発生初期の薬剤防除を徹底します。

## 3. トマト

### (1) トマト黄化葉巻病

予報内容 発生時期： 平年並 発生量： 平年並

### 予報の根拠

- 1) 近年、県北部地域を中心に発生しています。
- 2) 6月下旬の巡回調査では、発生は認められていませんが、持ち込みによる診断依頼において発生が認められています。

### 防除上の注意事項

- 1) 病原ウイルス（TYLCV）を媒介するタバココナジラミ類の防除及び分散防止を徹底します。薬剤のみによる防除は困難なため、0.4mm目以下の防虫ネット被覆等の耕種的防除法を併用します。栽培期間中は、黄色粘着トラップを利用してコナジラミ類の発生状況の把握に努めます。
- 2) タバココナジラミ類とオンシツコナジラミでは、防除薬剤が異なります。どちらが発生しているのか分からない場合には、農業研究開発センター技術支援課か病害虫防除所にご相談ください。
- 3) 発病株は出来る限り早急に抜き取り、埋没等により確実に枯死させます。ほ場周辺での野良生えや自家菜園等のトマトやミニトマトは、TYLCVの温床となる場合があるので注意します。

## (2) かいよう病

予報内容 発生時期：平年並 発生量：平年並

### 予報の根拠

- 1) 6月下旬の巡回調査では、発生は認められていません。
- 2) 今後の気温の上昇と降雨によって発生が助長されます。

### 防除上の注意事項

- 1) 本病の予防には雨よけ栽培が最も有効です。露地ほ場では、発生後薬剤防除を行っても降雨が続くと病勢の進展を止めることは困難です。
- 2) ほ場の排水に努め、傷口等からの侵入を防止するため、乾きやすい晴れの日摘芽・摘葉作業を行います。
- 3) 発生ほ場では必ず発生初期に下葉の発病葉を除去処分し、カスミンボルドー等による防除を行います。

## 4. ホウレンソウ

### (1) 萎凋病

予報内容 発生時期：平年並 発生量：平年並

### 予報の根拠

- 1) 6月下旬の中山間地域での巡回調査では、発生は認められていません。
- 2) 今後、気温の上昇により発病が助長されます。

### 防除上の注意事項

- 1) 発生ほ場で連作する場合は、薬剤または太陽熱による土壌消毒を実施します。
- 2) 薬剤による土壌消毒では、処理前の土壌水分の調整が重要です。土をしっかりと握って、土塊に少しひびが入る程度が適当です。土が乾燥していたり、加湿の場合、薬剤の処理効果が著しく低下しますので、注意します。土壌の耕耘は処理の直前にていねいに行い、薬剤処理後は直ちにガスが漏れないように新しいフィルムで土壌表面をきっちりと被覆します。
- 3) 消毒後は、汚染土壌の持ち込みや浸冠水による病原菌の侵入を防ぐため、農機具や長靴についた泥や雨水等の流入に十分注意します。

## 5. キク

### (1) 白さび病

予報内容 発生時期：平年並 発生量：やや多い

### 予報の根拠

- 1) 6月下旬の巡回調査では、発生は認められていませんが、地域によっては多発ほ場が確認されています。
- 2) 今後も天候不順が続くと発生が拡大する恐れがあります。

### 防除上の注意事項

- 1) 梅雨明けまでは降雨後の定期的な予防散布に努めます。
- 2) 発生ほ場では、発病した下葉を早目に取り除いて処分してから、防除を行います。今後降雨が続く場合には上位葉～中位葉を中心に薬剤をていねいに散布します。



- 3) 本病の予防には、ジマンダイセンフロアブル、サンヨール等を用い、発生後は、これらの剤に加えてストロビルリン系剤やDMI 剤等も用いて防除します。但し、耐性菌の出現を避けるため同一系薬剤の連用は避けます。

## 6. 野菜類・花き類共通

### (1) アブラムシ類

予報内容 発生時期：平年並 発生量：平年並

#### 予報の根拠

- 1) 6月下旬の巡回調査では、発生ほ場率はナス 13%、イチゴ 36%、スイカ 33%でした。トマト、キュウリ、キクでは発生は認められていません。

#### 防除上の注意事項

- 1) 薬剤抵抗性が発達しやすいので、同一系統の薬剤を連用しないように注意します。  
2) 大分・宮崎・和歌山・愛媛県において、ネオニコチノイド系薬剤に対する感受性が低下したワタアブラムシが報告されています。今後、分布の拡大が予想されますので同系薬剤の効果が低い時は農業研究開発センター技術支援課または病害虫防除所にご相談下さい。

### (2) ミナミキイロアザミウマ（ナス・キュウリ）

予報内容 発生時期：平年並 発生量：平年並

#### 予報の根拠

- 1) 6月下旬の巡回調査では、ナスの発生ほ場率は 25%でした。キュウリでは発生は認められていません。  
2) ナスでは一部地域で発生が認められており、注意が必要です。

#### 防除上の注意事項

- 1) 施設ナス収穫終了後は、好天日に 2～3 日間ハウスを密閉して 60℃以上の高温で虫を殺してから、片付け作業を行います。  
2) 夏秋ナスでは、土着天敵が増加する時期ですので、合成ピレスロイド剤、ネオニコチノイド剤、有機リン剤、カーバメート剤、マクロライド系剤等、天敵に悪影響のある殺虫剤の使用を控えます。発生した場合には、プレオフロアブルを散布します。

### (3) ハダニ類

予報内容 発生時期：平年並 発生量：多い

#### 予報の根拠

- 1) 6月下旬の巡回調査では、各作物の発生ほ場率はナス 50%、イチゴ（育苗）55%、スイカ 67%、キク 50%でした。キュウリでは発生は認められていません。  
2) 6月上旬～中旬は平年に比べ気温が高く、降水量が少なくなっています。  
3) 梅雨明け以降は増加が見込まれます。

#### 防除上の注意事項

- 1) 周辺で除草が行われたり、野菜残さの積み上げが行われた場合はハダニの侵入が予測されるので、注意して観察します。  
2) イチゴ親株の雨除け育苗を行うと、ハダニが発生しやすくなるので注意します。  
3) 薬剤を散布する場合は、まず、不用な下葉、古葉を取り除いたり、整枝、剪定を行い、葉裏に薬液がかかりやすい状態にしてから行います。  
4) イチゴでは、薬剤のかかり易い育苗期は薬剤抵抗性の発達しにくい気門封鎖剤を中心に利用します  
5) 一部で薬剤抵抗性の個体群が見られますので、薬剤散布 2～3 日後の防除効果を確認して、効果の低いときは農業研究開発センター技術支援課または病害虫防除所にご相談下さい。

### (4) コナジラミ類（トマト・ナス・イチゴ育苗・キュウリ）

予報内容 発生時期：平年並 発生量：平年並

#### 予報の根拠

- 1) 6月下旬の巡回調査では、発生ほ場率は、半促成トマト 40%、夏秋ナス 13%、イチゴ 27%でした。夏秋トマト、キュウリでは発生は認められていません。

### 防除上の注意事項

- 1) 施設栽培では増えやすいので、生長点をたたいて白い成虫の飛び出しが見られたら早めに防除します。また、栽培終了後に地際で作物の茎を切ってから施設を1週間程度閉め切り、作物を枯らせ、コナジラミ類の周辺への分散を防止します。
- 2) 最近、タバココナジラミ類、オンシツコナジラミ共に殺虫剤感受性の低下が進んでいます。多発した場合は、農業研究開発センター技術支援課または病害虫防除所にご相談下さい。

### (5) オオタバコガ (トマト・ナス・キク)

予報内容 発生時期：平年並 発生量：平年並

#### 予報の根拠

- 1) 農業研究開発センター（橿原市四条町）内のフェロモントラップへの第1世代の誘殺は、平年より少なくなっています。
- 2) 6月下旬の巡回調査では、被害は発生していませんが、すでに産卵が始まっています。

#### 防除上の注意事項

- 1) 7月上旬に第2世代幼虫発生が始まり、この時期から発生が増加します。今後急増する可能性がありますので、注意が必要です。
- 2) 孵化幼虫は株上部の新芽や花蕾から食害しますので、この付近をよく観察して、発生が見られたら直ちに防除します。発育が進むと薬剤の種類によっては効果が低下しますので、発生初期の防除を徹底します。
- 3) 多発時にはフェニックス顆粒水和剤などの速効性の高い剤を、少発時にはエスマルクDFなどのBT剤を使用し、同一系統の薬剤を連用しないように注意します。
- 4) 施設の場合は4mm目合いのネットを開口部に設置すると侵入防止効果があります。

### (6) アザミウマ類 (ミカンキイロアザミウマ、ヒラズハナアザミウマ等)

(トマト・花き類)

予報内容 発生時期：平年並 発生量：平年並

#### 予報の根拠

- 1) 6月下旬の巡回では、発生ほ場率は半促成トマト40%、キク16%でした。夏秋トマトでは発生は認められていません。

#### 防除上の注意事項

- 1) 花き類では収穫適期を過ぎた放置株が温床となりますので、直ちに処分します。
- 2) ほ場周辺のクローバー、ヒメジョオン等の雑草の花に多く集まります。雑草は開花前に除草を徹底します。開花後に除草すると餌を求めてアザミウマがほ場内に移動してきますので、注意します。
- 3) アザミウマの種類によって薬剤の効果が異なります。特にミカンキイロアザミウマは薬剤感受性が低下しています。殺虫剤の効果に疑問を感じた場合には農業研究開発センター技術支援課または病害虫防除所に相談するようにして下さい。
- 4) ミカンキイロアザミウマはトマト黄化えそウイルス(TSWV)等を伝搬するので、アザミウマの発生ほ場の発病株は早急に処分します。

※農薬に関する情報は、平成26年6月25日までの農薬登録情報に基づいて記載しています。

お問い合わせは

奈良県病害虫防除所  
TEL. 0744-22-6201

病害虫防除所ホームページ  
<http://www.jpnpn.ne.jp/nara/>